

複雑な建物でも、XF15の羽柄/合板CADは対応可能！

部分パース図（カットモデル）

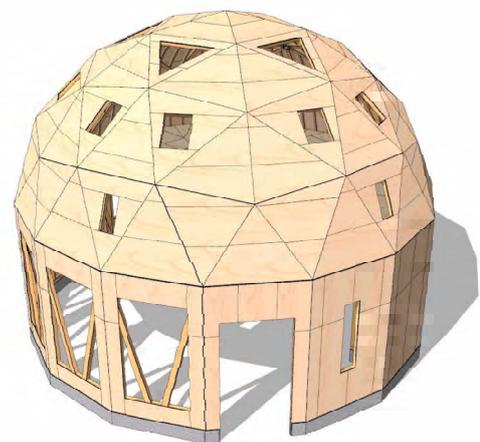
XF15 開発から13年 機能向上

XF15は宮崎県にあるプレカット工場からの熱い要請により、非住宅木造がこれからの成長分野になると確信し、2008年に開発を着手し、「木材利用促進法」が施行された年の翌2011年にバージョン1.0が完成した。開発着手から13年、同社は継続的に機能向上と拡充を図り、非住宅木造の機械プレカットを大きく前進させてきた。

ここにきてXF15は従来のプレカットCADとは「一線を画すCAD」であることが認められてきている。入力範囲の無制限化、材本数の無制限化、大断面集成材の加工、製作金物の自動設計機能、製作金物の製作図面展開、強力な部材&金物干渉チェック機能、CLT、ログハウス、トラス、斜め2面カット、断面図入力、BIM (Revit) 対応など、13年間で開発した機能は計り知れない。

同社はこの度、XF15のメイン機能「製作金物の自動設計プログラム（1つの金物マスターでいろいろな角度の製作金物を自動設計できる技術/装置）」で特許（特許第6931508号）を取得した。

今回開発された「羽柄/合板CAD」は、構造材と同様、入力範囲や材本数の制限は無く、構造/羽柄/合板を一体で設計できる。通常と異なるグリッド（斜め/円弧/多角形等）も図面どおりの納まり・番付で機械加工できる。構造材と同様、伏図だけでなく任



アクロバティック設計
円形ドームの羽柄/合板も対応できる

意の断面図からも入力できるため、複雑な納まりも部材の干渉をチェックしながら入力できる。

複数の工場で加工を割り振る場合も、1つのデータから建物を分割して工区を分けることができる。工区ではなく、構造材と羽柄材で加工を分割する場合でも、構造材の納まりに合わせた羽柄材/合板の加工が容易にできることから、専門知識やノウハウに乏しいプレカット工場でも参入しやすくなると見ている。

同社の祖父江社長は「ウッドショックで非住宅木造の調達住宅以上に困難な状況にあり、構造材だけでなく、羽柄材/合板もCADで正確な積算ができる意義は大きい」と話す。なお、同社では今後「パネル化（床/壁/屋根）」へ対応させる開発を年内に予定している。